

進捗状況の概要 【1ページ以内】

交流プログラムの内容

【平成27年度】 トルコ国内での度重なるテロ発生をはじめ中東地域の治安が著しく悪化した為、長期留学の2名を除き学生派遣プログラムを実施できなかったが、連携大学からは、長期1名・短期12名と、計画人数を上回る合計13名の学生を受け入れ、教員招聘等と併せ多様な交流活動を実施した。

【平成28年度】 中東地域の治安情勢に改善の兆しが見られなかったため、長期留学の1名を除き学生派遣は見合わせた。連携大学からは長期3名・短期15名と、計画人数を上回る合計18名の学生を受け入れ、日本の芸術文化に係る知識や技法の修得を中心とした多様なプログラムを実施した。

※平成29年度6月時点では、安全対策・危機管理体制の整備をしつつ、日本人学生の派遣を実施している。

質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

【平成27年度】 本学の教職員による現地往訪や、連携大学からの学長・副学長を含む教員の招聘により、本事業に係る交流プログラムについて、各大学で提供される教育内容、単位認定方法、派遣/受入学生に対する支援内容、各大学の役割、今後の課題、国際共同カリキュラムに向けた展開等について協議を行った。産学連携については、陶芸家の工房、東京都美術館、香川県の文化振興課や県立美術館などとの連携による多様な体験活動の提供やインターンシップ等に係る協議を実施した。

【平成28年度】 連携三大学のすべてと本事業の実施に係る新規の協定を締結し（一部は平成27年度末）、加えて、アナドル大学とはエラスムス+協定を結び、学生交流の機会および支援を拡充した。また、外国人留学生の受入時に、デザイン・エンジニアリング会社、絵筆や絵の具の製造会社、奈良や京都の寺社仏閣、上野の杜の美術館等における体験活動や教育プログラムを実施した。加えて、本学のグローバル戦略推進委員会において、本事業の取組状況について「自己評価書」を取りまとめ、それを踏まえ、外部委員により構成されるグローバル戦略評価・検証委員会を開催し「外部評価書」を作成した。

外国人学生の受入および日本人学生の派遣のための環境整備

【平成27年度】 プロジェクト専門スタッフ、サポートスタッフ、事務補佐員を雇用・配置したほか、在外日本大使館等との協議を進めた。併せて、学生支援に係るOB・OGネットワークの整備として、本学教職員がイスラエルに往訪した際、帰国留学生との連絡調整を実施した。また、係員・主任級の事務職員全員に対して長期的な英語研修プログラムを開始し、受け入れた外国人留学生と教育現場で日常的に接する助教・教育研究助手に対しても、同様の語学学習プログラムを実施した。

【平成28年度】 次年度以降の学生派遣に向けて、本学の教職員がトルコ・イスラエルの現地環境を調査し、連携大学との綿密な打合せや、大使館等との情報交換・協議を実施した。また、学生派遣プログラムを安全に推進する為に、危機管理会社等と協働し、海外渡航に係る安全対策や危機的状況発生時の対応に特化したマニュアルの作成、派遣前の事前研修やガイダンスの整備、安否確認に係る連絡ルートの確保、派遣学生との日常的な連絡・指導体制の構築、連携大学における支援の強化等を図った。

事業の実施に伴う大学の国際化と情報の国際、成果の普及

【平成27年度】 本学のWebサイトにおいて、本事業の構想概要、計画、将来ビジョンおよび、学生交流プログラム等の個別活動のレポートを日本語・英語の双方で公開した。

【平成28年度】 本学の英語版パンフレットにおいて本事業の概要を発信したほか、平成28年度の取組について多数のイラストや活動写真を含む日英併記による成果報告書を作成した。また、SGU事業で開催した「Global Homecoming2016（元留学生招聘事業）」に、本事業の連携大学が特別枠として参画し、中東諸国以外も含めたネットワークの強化と本事業に係る様々な取組の発信・成果の普及に繋げた。

【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

平成27年度				平成28年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績
11人	2人	10人	13人	17人	1人	14人	18人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】

平成27年度および平成28年度の取組における特筆すべき成果について、本事業の中核的なコンセプトである「6つの多様性（Diversity）」の観点から、以下に記載する。

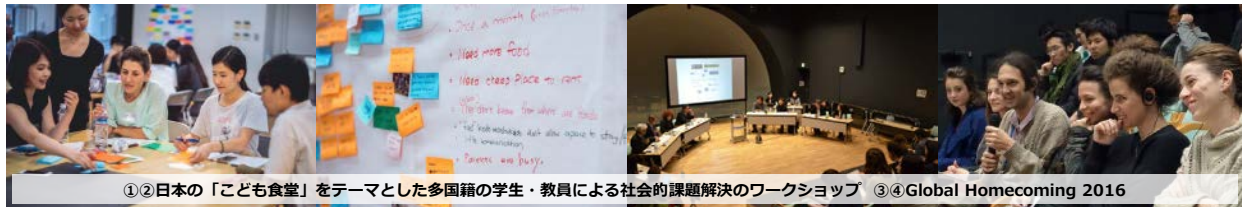
■ **専攻分野の多様性** ファインアート、工芸、彫刻、デザイン、建築等の幅広い分野で、それぞれの特色を踏まえた交流プログラムを実施した。また、多様な分野が交錯・融合する取組も実施した。



①様々な専攻の学生によるトークセッション ②本学建築科アトリエでのレクチャー ③ミマルシナン大学の彫刻工房 ④同スタンドグラス工房

■ **実施期間の多様性** 1か月未満の短期交流プロジェクトを中心に進めつつ、3か月以上のプログラム（交換留学）として、長期の学生派遣／受入も実施した。また、受入時期の点についても、連携大学の希望に応じてカスタマイズする等、柔軟性・弾力性を確保した。

■ **学生・国籍の多様性** 本事業による受入学生・教員が、デンマークのコリング・デザイン大学と本学との共同ワークショップや、欧州・アジアから教員や学生等を集めた国際イベント（Global Homecoming 2016）に参加する等、幅広い国際ネットワークの活用による取組を実施した。



①②日本の「子ども食堂」をテーマとした多国籍の学生・教員による社会的課題解決のワークショップ ③④Global Homecoming 2016

■ **ロケーションの多様性** 受入学生の学修に関して、本学の上野キャンパスだけでなく、取手キャンパスの工房施設・宿泊施設の活用による「登り窯実習」、奈良・京都における古美術研究旅行での専門分野の教員による指導のもとでの特別拝観等を実施した。



①②本学の取手キャンパスにおける「登り窯実習」 ③④奈良・京都における古美術研究旅行

■ **芸術文化リソースの多様性** トルコからの教員招聘によるラスター彩（イスラム圏の陶器）についての特別講義、本学の能ホールにおける「能楽」の体験、日本画・扇状画の実習等を実施した。



①アナドル大学（トルコ）からの教員招聘による特別講義 ②能ホールにおける能楽体験 ③④日本画・扇状画の実習

■ **ステークホルダーの多様性** 陶芸家の工房、横浜美術館、東京都美術館、デザイン・エンジニアリング会社、絵筆や絵の具の製造会社等と連携し、ワークショップやインターン活動を実施した。



①横浜美術館で学芸員等からレクチャーを受講 ②東京都美術館での「とびろプロジェクト」への参加 ③デザイン・エンジニアリング会社での講義 ④絵の具の製造会社での業務体験